

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和6年 7月～9月実績

令和6年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 令和6年7～9月期実績及び令和6年10～12月期見通し
7. 調査時点 令和6年9月1日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

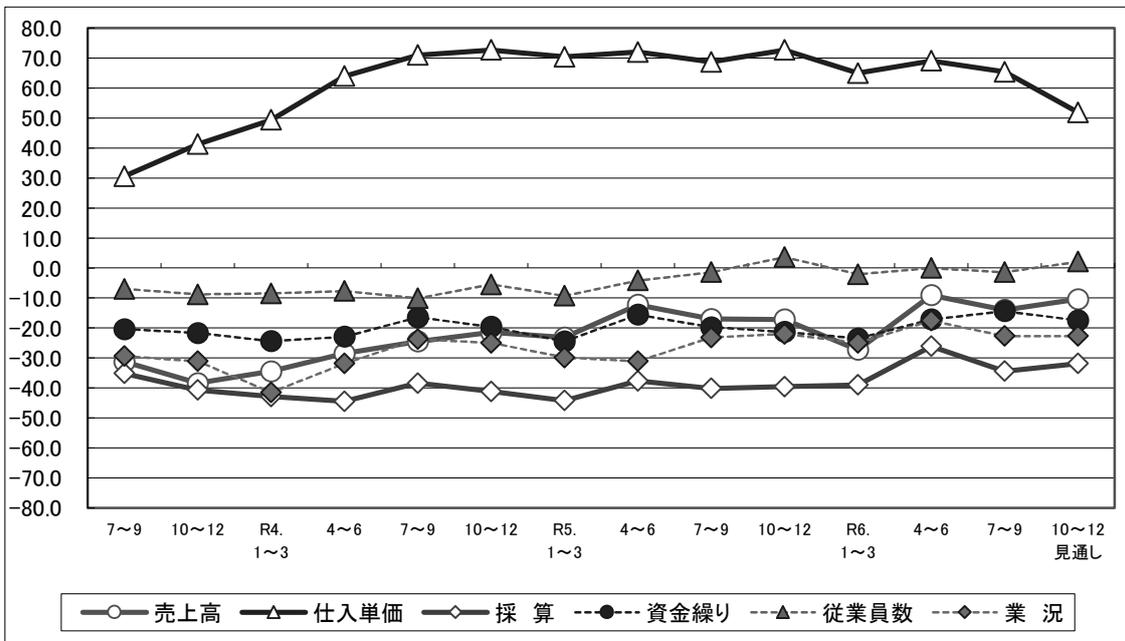
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

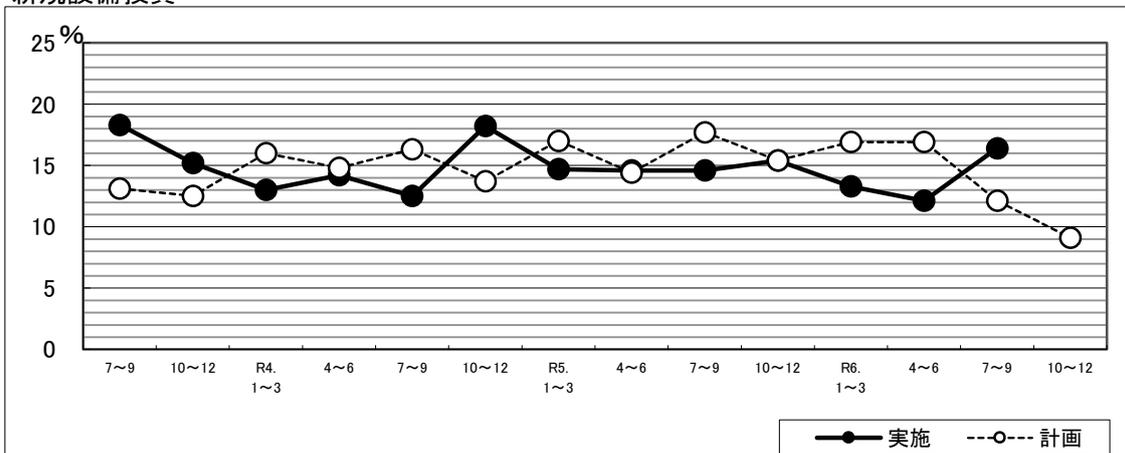
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1~3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4~6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7~9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10~12見通し	▲ 10.4	51.9	▲ 31.9	▲ 17.5	2.1	▲ 22.7

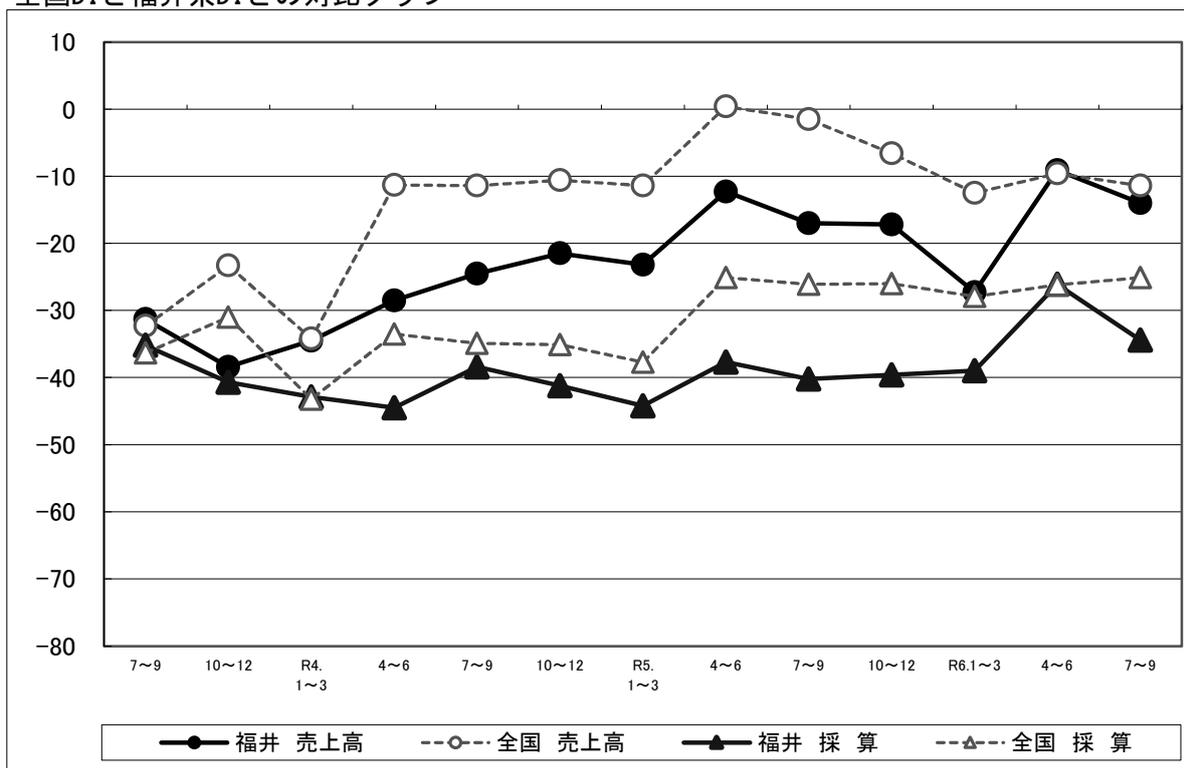
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R6年7-9月期の福井県経済を概観すると、引き続き能登半島地震の影響が一部業種で見られるものの、北陸新幹線の県内開業効果もあって、全体では持ち直している。ちなみに、企業部門では、生産活動面で主力の電子部品・デバイスや繊維、眼鏡枠などの地場産業、さらに非鉄金属などを中心に持ち直している。家計部門では、個人消費面で主要観光地の来訪者数やホテル・旅館の宿泊者数が増加しているほか、ドラッグストア販売の拡大や、百貨店・スーパー販売が堅調を維持していることなどから、持ち直している。先行き（R6年10-12月期）についても、復旧・復興の動きに加え、各種政策効果や北陸新幹線敦賀延伸の効果もあって持ち直していくことが期待されるが、地震や風水害の影響には十分注意する必要がある。

こうした現況ではあるが、今期（R6年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中2項目のみの改善にとどまり、県内中小企業の業況はいまだ厳しいことがうかがえる。項目ごとのDI値をみると、改善した項目は、仕入単価（逆指数）が前期69.1→今期65.4へ、資金繰りが前期▲17.2→今期▲14.4へと改善したが、売上高（前期▲9.1→今期▲14.0）、採算（▲26.1→今期▲34.4）、従業員数（前期の0.0→今期▲1.4）、業況（前期▲17.6→今期▲22.7）では悪化傾向となった。総じてみれば、県内の中小企業では、仕入れ単価の持ち直しにより、資金繰りがやや改善したものの、売上高の改善や、それに伴う採算の持ち直しなどは進まず、厳しい経営環境が残る結果となった。先行きについては、1項目で悪化予測となった以外、改善或いは横ばい予測となっており、今後の持ち直しが期待できる結果となっている。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、福井県では、売上高、採算ともに悪化傾向にあるが、全国では採算に多少の改善傾向がみられた。

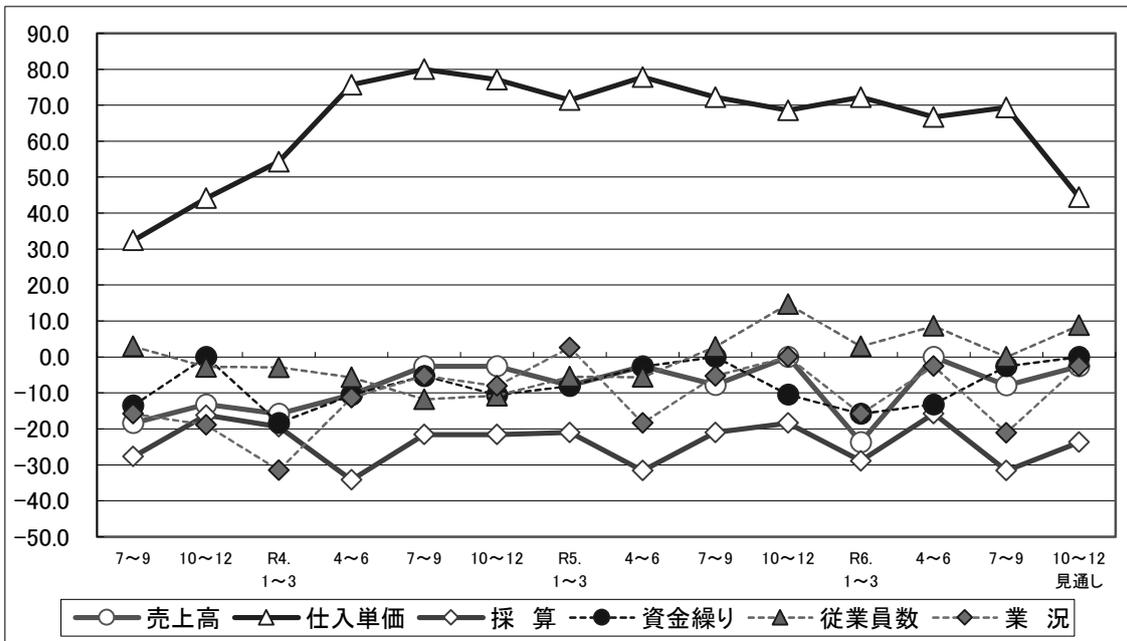
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業12.1%に対し実施した企業が16.4%と、実施が計画を上回っている。先行きについては、計画している企業が9.1%にとどまり、投資意欲は今期をやや下回ることが予想される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

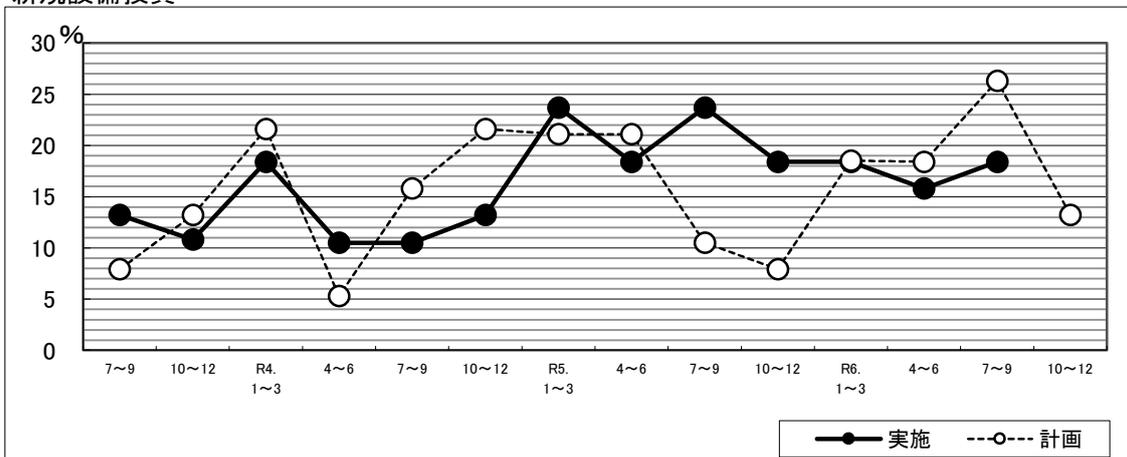
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7~9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10~12見通し	▲ 2.6	44.4	▲ 23.7	0.0	8.8	▲ 2.6

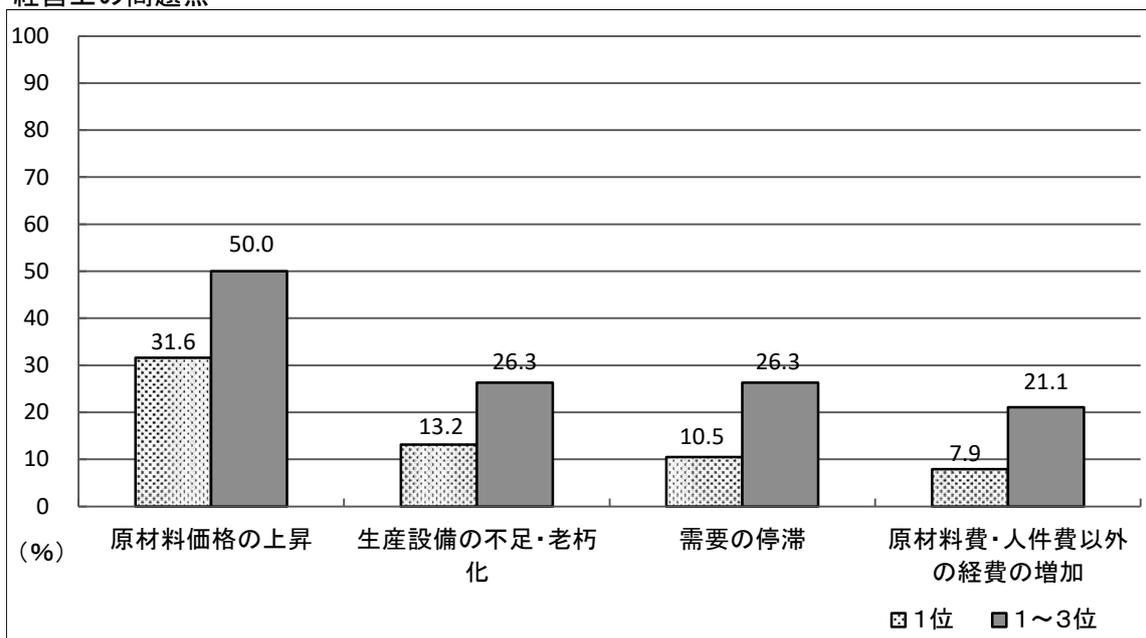
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・今年2月に商品の値上げを行い、その分の売り上げは増えているが、新幹線開業効果は感じない。今後の大キャンペーンに期待。10月には最低賃金も上がりベースアップも行ったが、今後の利益計画は不安な要素も多い。
- ・受注は、リピート品の割合が多いが、生産ロットが少なくなっている。見積を出しても受注に結び付くことが少なく、品質より安価な所に流れているような感じである。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、化学工業で合成樹脂関連製品を中心に苦戦しているものの、地場産業では、繊維工業で衣料向けが足踏みながら、非衣料向けが持ち直していることや、眼鏡枠なども緩やかに回復している。また、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に持ち直しているほか、非鉄金属なども持ち直している。その結果、福井県の製造業全体では、業種間格差を伴いながら、緩やかに持ち直している。

しかし、今期（R6年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中5項目で悪化傾向となっている。中小の県内製造業では、仕入価格の上昇や人手不足が続いており、引き続き厳しい経営状況にあることがうかがえる。ただ、業種間、規模間格差は否めない。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期0.0→今期▲7.9へ、仕入単価（逆指数）が前期66.7→今期69.4へ、採算が前期▲15.8→今期▲31.6へ、従業員数が8.6→0.0へ、業況が前期▲2.6→今期▲21.1へと悪化し、唯一、資金繰りのみが前期▲13.2→今期▲2.6へと改善が進んだ。ただ、先行き（R6年10-12月期）については、DI値6項目全てが改善予測となっている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の26.3%に対し実施が18.4%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R6年10-12月期）については、何らかの投資を予定する企業が13.2%にとどまり、来期は投資マインドが今期を下回ることが予想される。

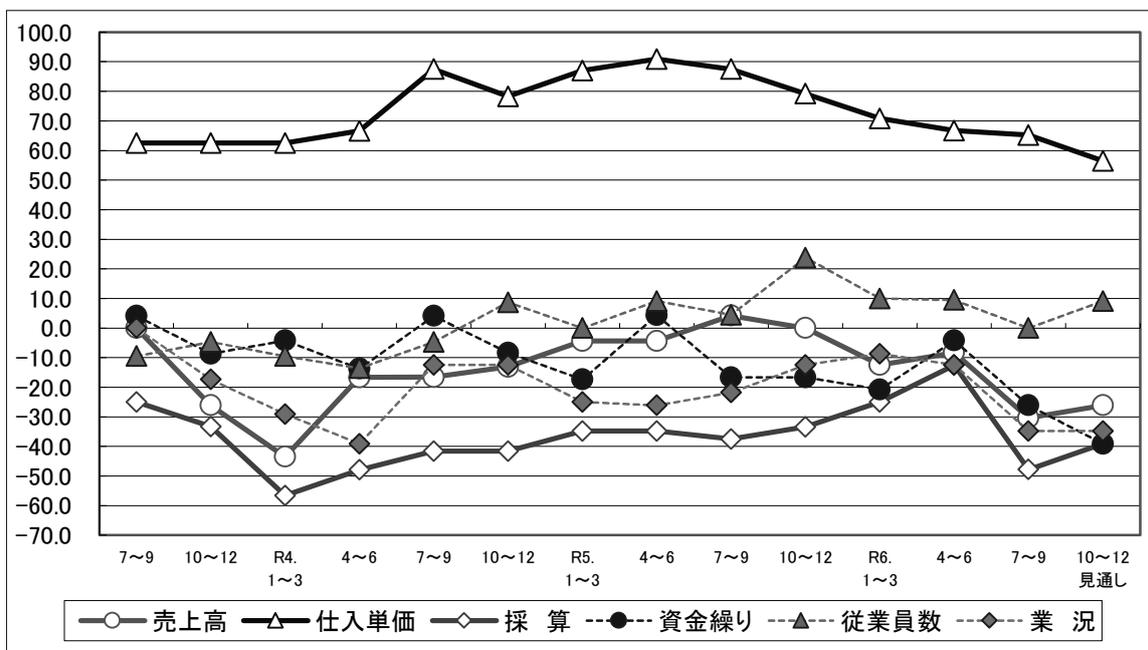
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」が最も多く31.6%（1位～3位までに挙げた企業50.0%）を占めた。個別の見解としては、「新幹線効果は感じない」とする声や、「生産ロットが少なくなっている」など、悲観的な見方がみられた。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

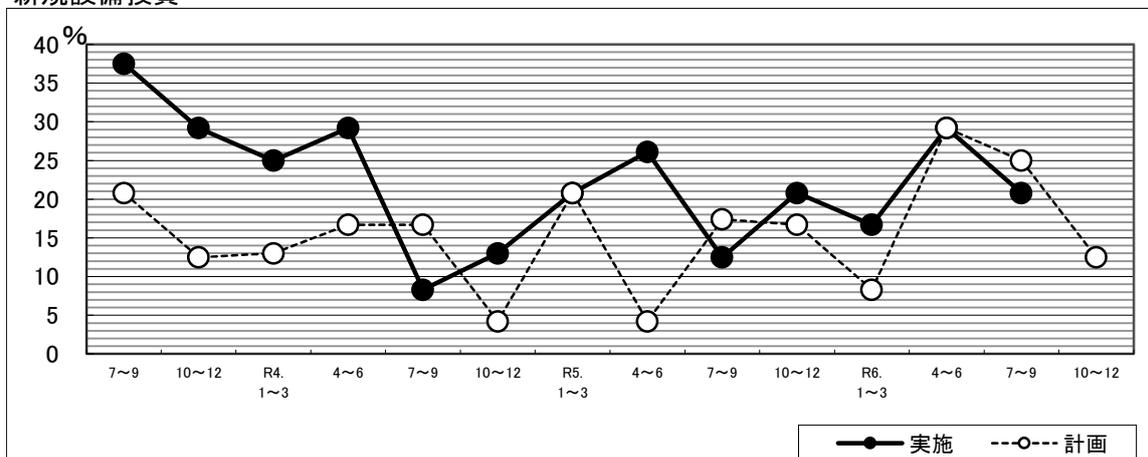
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1~3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4~6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7~9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10~12見通し	▲ 26.1	56.5	▲ 39.1	▲ 39.1	9.1	▲ 34.8

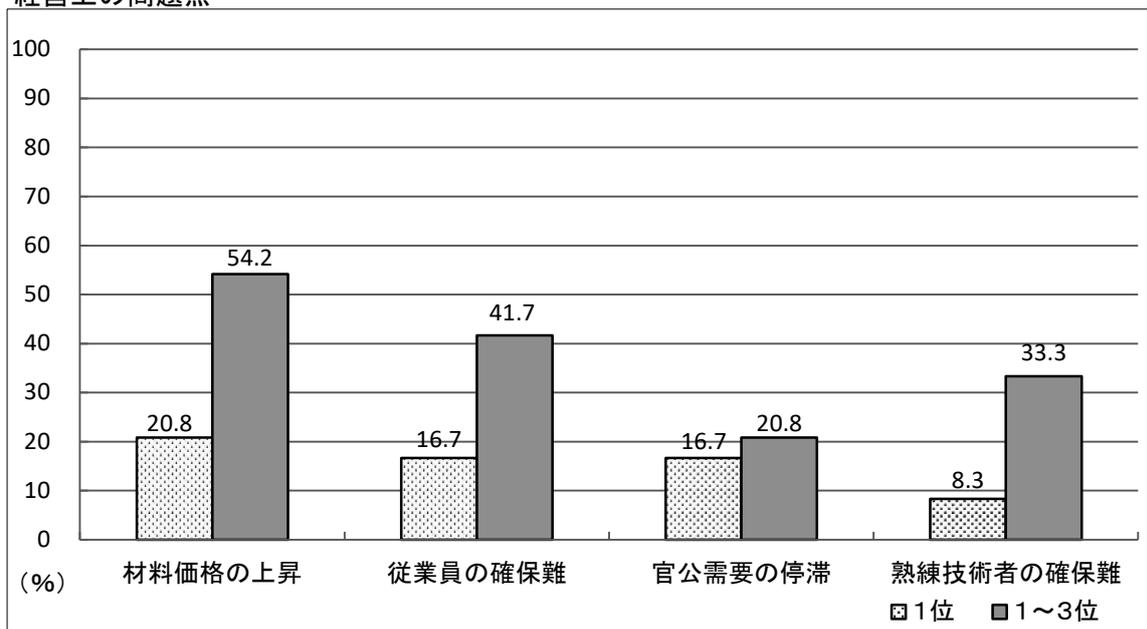
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・何でも物の値段が高くなっていると思う。車両の入替をしたが、中古車でも高かった。決算期で今期は利益を出すことができたが、人手不足で仕事をこなすにも限界があり、人材確保が悩みである。
- ・やはり例年にくらべ官公庁の発注量が少ない。年度後半になり増加して欲しいと思う。また、金利負担の増加も気になる。
- ・新幹線需要も終わり、地域的な特需の反動から相対的に公・民共積極的な設備投資が下火と感じる。各法令改正やコンプライアンス重視の観点から以前に比べ経費がかかるようになってきている。

建設業の景況

福井県内におけるR6年4-9月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計979億80百万円の前年同期比7.4%の増加、発注件数では同2,052件の同5.4%減となっている。主な発注者別でみると、県関連工事が274億80百万円の前年同期比7.1%減となったほか、市町村関連工事も276億87百万円の同6.7%減となった。そのほか国関連工事は239億49百万円で、同55.3%の大幅増加となっている。一方、住宅投資については、R6年4-8月の累計で、前年同期比18.4%減の1,609戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比9.7%減の895戸、貸家が同40.7%減の450戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が1項目にとどまり、厳しい経営環境がうかがえる。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲8.3→今期▲30.4、仕入単価（逆指数）が前期66.7→今期65.2、採算が前期▲12.5→今期▲47.8、資金繰りが前期▲4.2→今期▲26.1、従業員数が前期9.5→今期0.0、業況が前期▲12.5→今期▲34.8となっている。また、先行き（R6年10-12月期）については、悪化予測が1項目にとどまり、この結果から多少の改善が期待される。

一方、今期の新規設備投資については、計画の25.0%に対し実施が20.8%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R6年10-12月期）については、何らかの投資を予定する企業が12.5%にとどまり、来期は投資マインドの低下が懸念される。

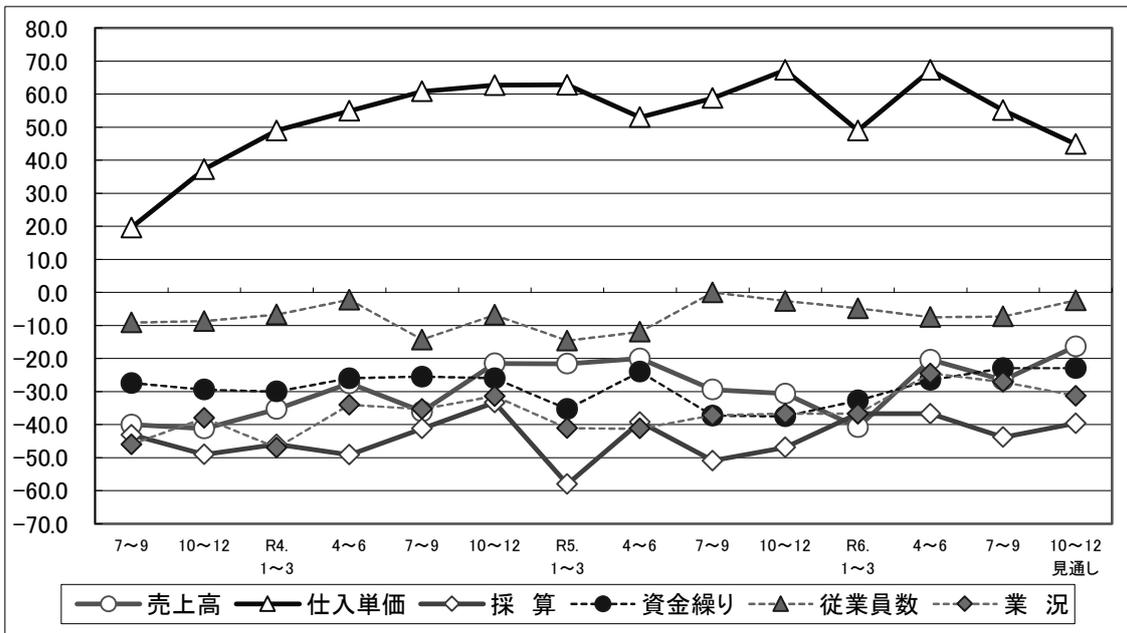
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く20.8%（1位～3位に挙げた企業54.2%）を占めた。個別の見解としては、原材料価格の上昇や人出不足、それに加え法令改正やコンプライアンス重視によるコストアップなどを指摘する声が聞かれた。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

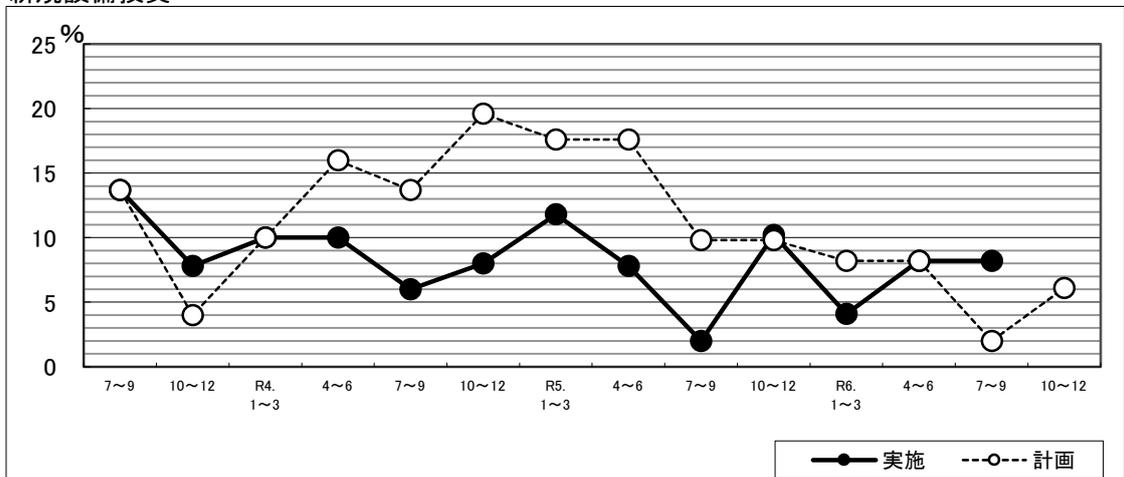
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7~9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10~12見通し	▲ 16.3	44.9	▲ 39.6	▲ 22.9	▲ 2.4	▲ 31.3

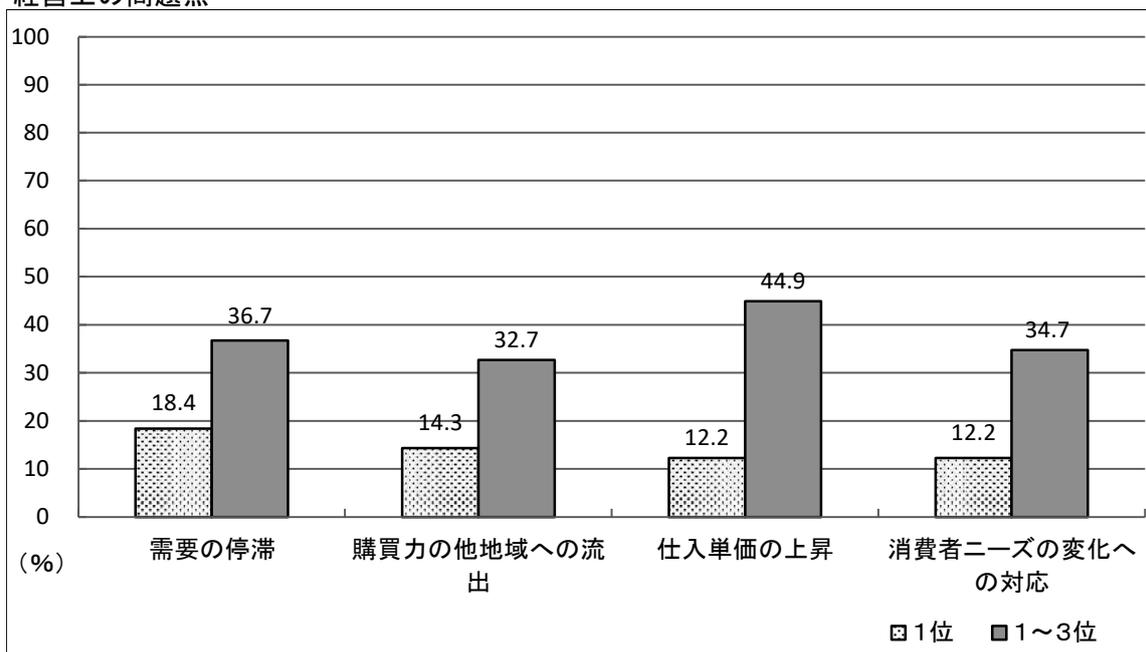
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・スタッフ（パート、アルバイト）を募集中。思うような人材がなかなか来てくれないが、今回こそは来ると感じている。海外出張ができたので、その際にまかせられるスタッフが必要である。
- ・インターネット等のお客の購買が増え、取付だけの依頼が増えた。アフターサービスがモットーの当店としての対応を考える時期になりました。
- ・来客数の減少が目立っている。写真が必要な人が減っているのだと思う。スマホで撮ってデータで保存の時代。ご自宅でプリンターがあるのか、コンビニやインターネットを利用される方も多いと思う。

小売業の景況

最近の小売商況をみると、北陸新幹線の県内開業効果もあって、百貨店・スーパー、ドラッグストアなど地域の専門店を中心に持ち直している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR6年8月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、衣料品や家具・家電・家庭用品が不振ながら、食料品、身の回り品などが堅調に推移したことなどから、前年同月比で5.9%上昇し、79億13百万円と、3か月連続のプラスとなった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中3項目で改善、3項目で悪化となっている。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲20.4→今期▲26.5、仕入単価（逆指数）が前期67.3→今期55.1、採算が前期▲36.7→今期▲43.8、資金繰りが前期▲26.5→今期▲22.9、従業員数が前期▲7.5→今期▲7.3、業況が前期▲24.5→今期▲27.1となっている。先行き（R6年10-12月期）については、6項目中4項目で改善予測が立てられている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の2.0%に対し実施は8.2%と実施が計画を上回っている。先行き（R6年10-12月期）については、何らかの投資を計画する企業が6.1%と、今期並みの投資マインドになる模様である。

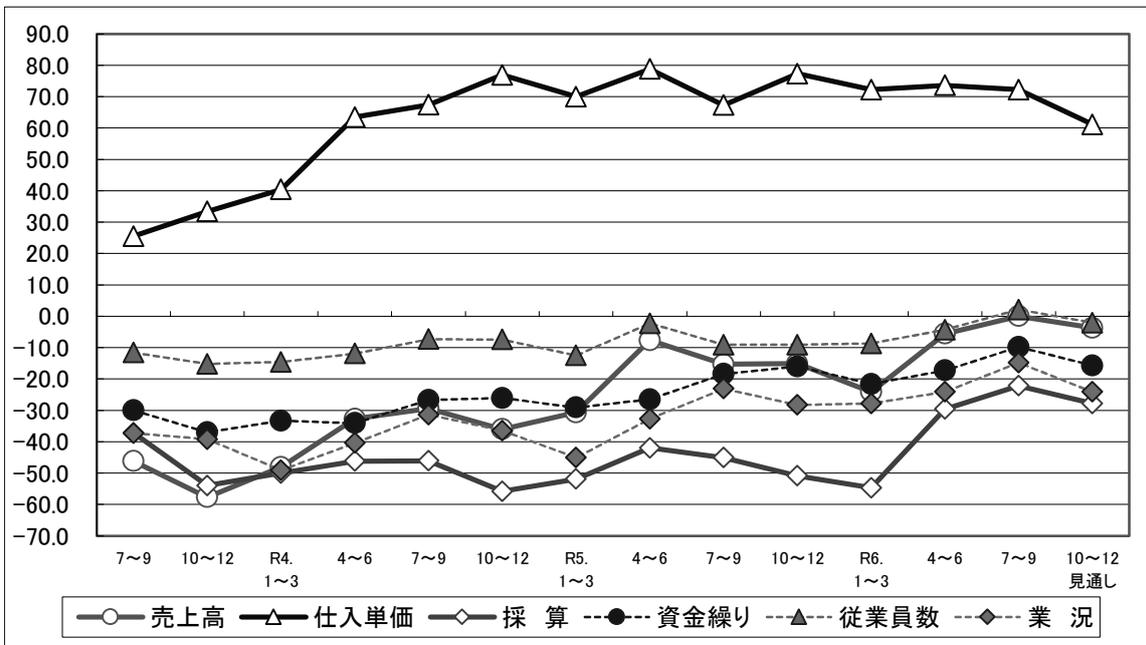
最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト18.4%、1位～3位までに挙げた企業36.7%となった。その他の見解としては、「思うような人材が集まらない」のほか、「来客数の減少が目立っている。写真が必要な人が減っているのだと思う。スマホで撮ってデータで保存の時代。ご自宅でプリンターがあるのか、コンビニやインターネットを利用される方も多いと思う。（カメラ店）」など、業界の構造的な課題を懸念する見解がみられた。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

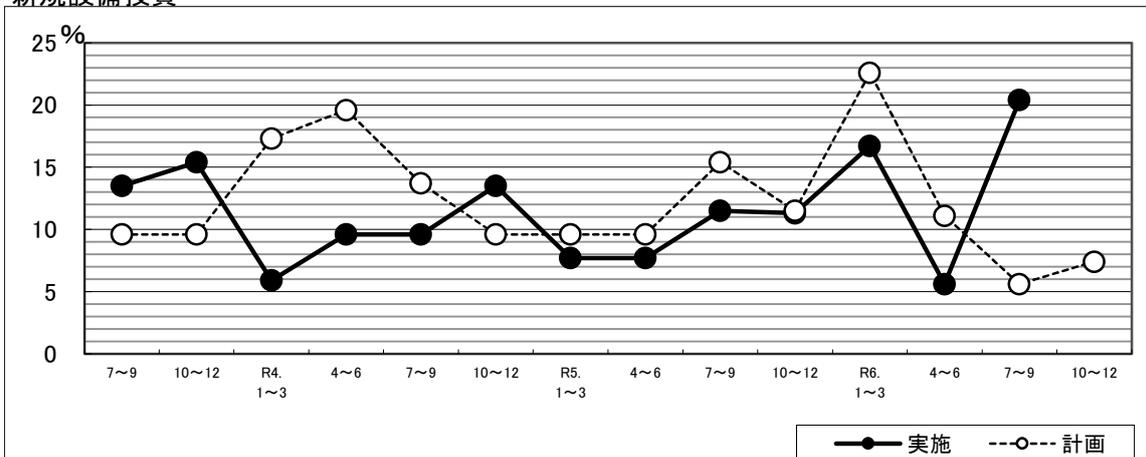
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1~3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4~6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7~9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10~12見通し	▲ 3.7	61.1	▲ 27.8	▲ 15.7	▲ 2.1	▲ 24.1

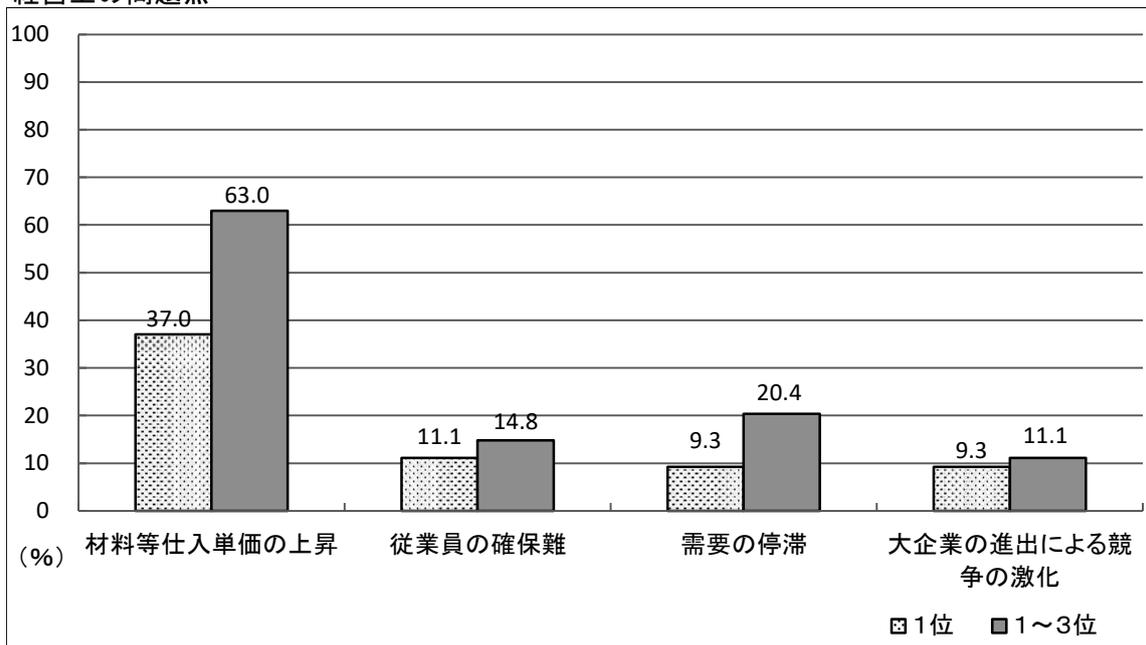
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・材料等仕入単価はどんどん上がるが、価格はなかなか上げる事が出来ない。異常な暑さでお盆休みも人出が少なかった。
- ・新幹線効果か、関東信越方面のお客様が夏休み期間中増加した。関西、中京方面は、車利用が多く、新幹線の乗り換えは、影響がなかった。また、全国中学校体育大会の開催で夏休み全体にお客様が長く続いた。
- ・コロナが完全に明け、コロナ前よりも売上が伸びている。新幹線効果も有り、今後も更に伸びていくと感じている。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する7月のサービス産業活動指数（R6年7月、季節調整値）は、「運輸業、郵便業」、「卸売業」などの業種が上昇したことから、全体として前月比1.4%と、2か月ぶりの上昇となった。また、2024年の活動状況を振り返ると、1月は前月比マイナス0.8%の低下、2月は同2.1%の上昇、3月は同マイナス2.5%の低下、4月は同2.3%の上昇、5月が同0.3%の上昇、6月が同マイナス1.2%の低下、今回7月が同1.4%の上昇となっており、引き続き一進一退の状態にあることがわかる。このため、経済産業省のサービス産業活動指数7月の基調判断については、「一進一退」のまま据え置かれた。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目全てが改善傾向を示している。項目別の指数は、売上高が前期▲5.6→今期0.0、仕入単価（逆指数）が前期73.6→今期72.2、採算が前期▲29.6→今期▲22.2、資金繰りが前期▲17.3→今期▲9.8、従業員数が前期▲4.3→今期2.1、業況が前期▲24.1→今期▲14.8となっている。また、先行き（R6年10-12月期）については、仕入れ単価以外5項目で悪化予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画5.6%に対し実施が20.4%と、実施が計画を大幅に上回っている。先行き（R6年10-12月期）については、何らかの投資を考える企業が7.4%となっており、今期をやや下回ることが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に挙げた企業37.0%、1位~3位までに挙げた企業63.0%）への指摘が最も多い。個別の見解として、「コロナ前よりも売上が伸びている」、「関東信越方面のお客様が夏休み期間中増加した」などポジティブな見解が目立っている。

全国・福井景気動向 令和6年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 11.4	69.4	▲ 25.1	▲ 13.9	▲ 4.1	▲ 18.3
	製造業						
	DI値	▲ 13.9	70.5	▲ 25.0	▲ 14.7	▲ 4.2	▲ 19.3
	建設業						
	DI値	▲ 13.0	71.9	▲ 23.7	▲ 10.2	▲ 6.9	▲ 13.7
	小売業						
	DI値	▲ 21.5	65.4	▲ 30.3	▲ 19.0	▲ 3.4	▲ 27.5
福井	サービス業						
	DI値	▲ 1.0	69.9	▲ 22.1	▲ 11.3	▲ 1.9	▲ 12.4
	全体						
	DI値	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
	製造業						
	DI値	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
	建設業						
	DI値	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 20.1	0.0	▲ 34.8
小売業							
DI値	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1	
サービス業							
DI値	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

